

今週の為替相場見通し(2022年9月20日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		141.61 ~ 144.96	142.94	140.00 ~ 148.00
ユーロ	(ドル)		0.9945 ~ 1.0198	1.0015	0.9700 ~ 1.0100
(1ユーロ=)	(円)		142.33 ~ 145.63	143.10	140.00 ~ 145.00
英ポンド	(ドル)		1.1351 ~ 1.1738	1.1422	1.1270 ~ 1.1470
(1英ポンド=)	(円)	*	162.75 ~ 167.75	163.18	161.00 ~ 164.00
豪ドル	(ドル)		0.6670 ~ 0.6915	0.6722	0.6660 ~ 0.6810
(1豪ドル=)	(円)	*	95.55 ~ 98.60	96.04	95.30 ~ 96.80

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 鈴木 智大

(1)今週の予想レンジ: 140.00 ~ 148.00 円

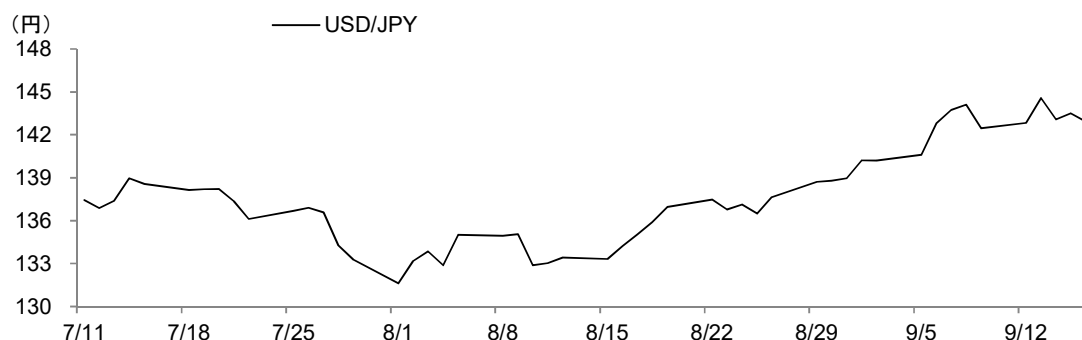
(2)ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円は方向感のない推移。週初12日は142.57円でオープン。米金利の上昇を背景に143円台半ばまで上昇する場面も見られたが、独連銀総裁の積極利上げ継続に関する発言にユーロが買われる中、ドル/円は下押し圧力を受け142円台まで反落。13日は米8月CPI前の調整に、一時週間安値となる141.61円まで下落。その米8月CPIでインフレの進行が確認されると、全面ドル買いとなりドル/円も急伸。一気に144円台半ばまで上昇し、その後も高値圏での推移が続いた。14日は東京オープン前に週間高値となる144.96円をつける。その後も145円手前で揉み合う中、当局によるトーンアップした円安牽制発言や日銀がレートチェックを実施したとの報道に円買いが強まり、一時142円台半ばまで下落。その後の反発も143円台前半までに留まった。15日は円安牽制に対する警戒感とFOMCの利上げ期待が交錯し方向感のない推移。16日は明確な材料がない中、143円を挟んで狭いレンジ内での推移となり、142.94円で越週した。週明け19日は東京休日の中、オープン後からじりじりとドルが買われる展開に143円台半ば近辺まで上昇。ただこれまでの勢いはなく、買いが一服すると143円台前半まで値を下げ、143.22円でクローズした。

今週のドル/円は、明確な方向感はない米金融政策会合の結果次第ではあるが、円が売られやすいトレンドに変化はなく、底堅い推移が継続すると予想する。FOMCでは75bpの利上げが基本線。先週のCPIの結果を受けて100bpの利上げ期待も一部では出てきているが、結果がどちらであれFRBの最優先事項はインフレ退治。インフレ進行が落ち着きを見せるまでは今後の引き締め姿勢にも変化はなく、ドル高基調は継続するものと思われる。むしろ警戒すべきはドットチャートや会合後のパウエルFRB議長の内容。引き締め姿勢以上に金利の最大到達点やその後の利下げ開始時期にマーケットの目が向かいつつあり、中期的な目線での政策に関する発言や動向に注目をしたい。一方でBOJは当局の発言や日銀のレートチェックにより、いつも以上に警戒感が強い。ただ黒田日銀総裁はこれまで緩和縮小を完全否定してきており、今回も明確な動きはありそうもない。強いて言えば長期金利の許容幅拡大等だが、各国との金利格差を到底補えるものではなく、実施しても効果は限定的だろう。むしろ警戒感が強いが故に、緩和スタンスに全く変化がなかった場合の猛烈な円売りの再開を警戒したい。また実弾に限られる円安抑制の介入にはより慎重を期す形にはなるだろうが、念の為当局の動きが活発になる145円に近づいたタイミングでの発言や行動には注意をしておきたい。

(3)先週までの相場の推移

先週(9/12~9/16)の値動き: 安値 141.61 円 高値 144.96 円 終値 142.94 円



(資料)ブルームバーグ

2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 上野 智久

(1) 今週の予想レンジ: 0.9700 ~ 1.0100 140.00 ~ 145.00 円

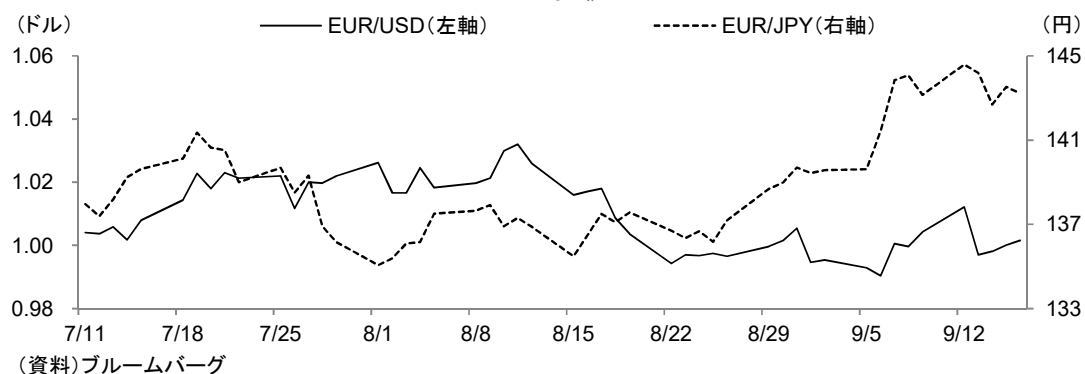
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場はパリティ(1ユーロ=1ドル)付近での上値の重い展開が継続。週初12日、1.00台後半でオープンしたユーロ/ドルは欧州株の堅調推移やECBメンバーのタカ派的な発言にユーロ買いが強まり、週高値の1.0198まで上昇。その後は域内の金利低下の動きに1.01台前半まで反落。13日、ユーロ/ドルは米金利低下を受けドル売り優勢で上値を伸ばす場面もあったが、その後の米経済指標の強い結果にドル買いが加速し0.99台後半まで急落し、再びパリティ割れとなった。14日、ユーロ/ドルは前日のドル買いの流れが継続し、シドニー時間に一時0.99台半ばまで下落した。その後米国時間に一旦は1.00台前半まで回復したが、米長期金利の反転上昇に再び0.99台後半まで反落。15日、ユーロ/ドルは米金利上昇に伴うドル買いに押され前日安値付近まで値を崩すも、欧州株の堅調推移にユーロ買い優勢となり1.00台を回復。その後も1.00ちょうどを挟んでの揉み合いとなった。16日は前日から一転して欧州株が軟調推移し、ユーロ/ドルは週安値となる0.9945まで下落。その後米金利低下とともにドル売りが強まり1.00台を回復するも、その後はパリティ付近でのみ合いとなり1.00台前半で越過。なお、東京祝日の19日についても、株や債券の動きを眺めながらパリティ付近での浮沈に終始している。

今週のユーロ/ドル相場は下値を探る展開を予想する。先週のユーロ/ドル相場は多少上下に振れる局面は確認されたものの、あくまでも株や債券などの動きに左右される主体性の乏しい推移、今週FOMC(20-21日)・日銀金融政策決定会合(21-22日)を控えていることもその要因であったと考えられる。注目のFOMCでは、インフレ抑制の姿勢を明確にしつつ75bpsの利上げ実施がメインシナリオとなっている。米8月CPIの強い結果を受けて、より踏み込んだ利上げ決定/利上げ見通し等が発表される可能性もあろう。基本的にはドル買いのリスクを注意する局面か。ユーロ/ドル相場はパリティ付近での推移が続いているが前述のドル買いリスクがある他、域内の景気減速リスクが俄かに高まりを見せている状況。ユーロを積極的に買う理由も見当たらない中でユーロ/ドル相場は下方向への警戒が必要な局面か。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(9/12~9/16)の値動き: (対ドル) 安値 0.9945 高値 1.0198 終値 1.0015
(対円) 安値 142.33 高値 145.63 終値 143.10



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.1270 ~ 1.1470 161.00 ~ 164.00 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、主要通貨に対して全面下落。16日までに、対ドルで1985年来の安値を更新する1.1351、対ユーロでも2021年2月来の安値を更新する0.8772まで安値を広げた。週明け12日、ポンドは対ドル、対円などで堅調気味の滑り出しを見せたものの、これは、週末(11日)の独連銀ナゲル総裁の発言を受けたユーロ高に連れた値動き。対ユーロではポンド売りが先行した。ナゲル総裁は、「(足元物価上昇が続く場合)利上げ継続が求められる」などと述べた。翌13日までに、ポンドは対ドルで週の高値となる1.1738まで反発したが、その直後に急反落。発表された米8月CPIが市場予想を明確に上振れたことで、鳴りを潜めていた米連銀大幅利上げ観測が再燃、ドル全面高を誘った。この局面、対ドルでの下げ足は、(前日のドル売りをけん引した)ユーロが最も速かったことから、ポンドも対ユーロでは堅調に推移。翌14日までに、週の高値となる0.86265まで上昇した。しかし、欧州中銀首脳からの相次ぐタカ派発言もあって(後述)、対ユーロでのポンド買いは長続きしなかった。その後週引けにかけ、ポンドは全面軟調に転じた。更に16日、英8月小売売上高が市場予想を大幅に下振れたことでポンドは続落。対ユーロの直近安値(6月15日の0.8721)、対ドルの直近安値(9月7日の1.1407)を相次いで割り込むことで、売りが売りを誘う展開に陥り、頭書の安値更新に至った。

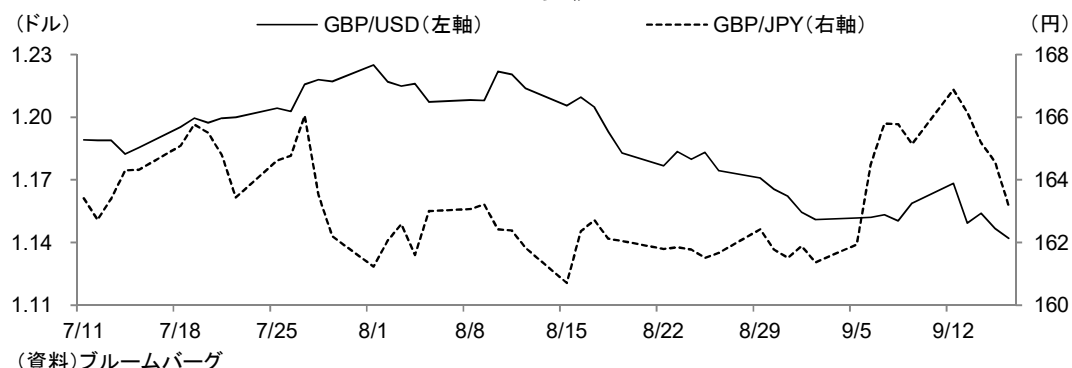
今週の英ポンド相場は続落を予想。日英はそれぞれ19日(月)が休日(三連休)となり、全般に閑散な滑りだしが予想されるものの、今週は21日(水)に米連銀公開市場委員会、22日(木)に日銀金融政策決定会合、英中銀金融政策委員会など主要中銀の政策決定発表が予定され、金融市場の緊張感が高い。ポンド続落を警戒するのは、それぞれ直近安値を割り込んだことで、対ドル、対ユーロでの底値を探りにいく動きがもう一巡する可能性を見込むから。日銀についてはフォワードガイダンスの文言修正など、微細な変更の有無が注目されるだけだが、米連銀、英中銀は、それぞれ政策金利の+75bp、+50bp引き上げは織り込み済みで、もう一段の大幅利上げの是非が注目を集めている。米連銀が+75bpにとどまり、英中銀が+75bpに踏み切るという組み合わせもあり得るかもしれないだろうが、英8月小売売上高の下振れなどに鑑みても、その可能性は高くなさそう。金融引き締め踏み込み具合という視点で、引き続き、英中銀が米連銀の遅れを取る構図は変わらないのではないかと。また、欧州中銀首脳からは、上述独連銀ナゲル総裁の他、デギンドス副総裁(12日/15日)、マルタ中銀紙クルーナ総裁(12日)、リトアニア中銀シムカス総裁(13日)、レーン理事・主任エコノミスト(14日)、オーストリア中銀ホルツマン総裁(14日)などから、この間、相次いでインフレ警戒感の強い(追加利上げに積極的と読める)発言が聞かれたおり、ドル同様、ポンドに対するユーロの優位は変わらないように思われる。もうひとつ気掛かりなのは、アイルランド/北アイルランド通商問題を巡るEUと英の確執。市場の関心は高くないように見えるが、エリザベス二世崩御/チャールズ三世即位の陰で、この問題は先送りされているだけ。「就任初日から物価対策に取り組む」としたトラス首相は、チャールズ三世の全国行脚に何故か随行しており、政策協議が滞ったままのように見えるのも、ポンドに好材料とは言えないだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(9/12~9/16)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1351 高値 1.1738 終値 1.1422

(対円) 安値 162.75 高値 167.75 終値 163.18



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.6660 ~ 0.6810 95.30 ~ 96.80 円

(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は0.69台前半まで上昇後、一時0.66台後半まで下落。12日、ECBメンバーによるタカ派発言をきっかけにユーロが大幅上昇する中、米ドル売りの流れとなり豪ドルは一時0.69まで上昇した。13日、序盤は堅調な株価や豪9月消費者信頼感、豪8月企業信頼感の改善などを受けて小高く推移。注目された米8月CPIでは前月比、前年比ともに市場予想を上回る結果となり、米株下落、米金利上昇、米ドル高の反応。豪ドルも急落し0.67台前半まで低下。14日、この日発表された米8月PPIもCPIに続き予想比強いものとなり、米金利は短期ゾーンを中心に小幅上昇したが、豪ドルへの影響は限定的だった。15日発表された豪8月雇用統計では前月に落ち込んでいた雇用者数が再び増加に転じ、労働市場の底堅さを示す内容となった。失業率は3.5%と前月の3.4%からわずかに上昇したが、労働参加率も増加した。ただし、この発表を受けた豪ドルの反応は限定的であった。NY市場時間に発表された新規失業保険申請件数や米8月小売売上高が予想以上に良好だったことなどを背景に米金利がじりじりと上昇する中、豪ドルは売り進まれて一時0.67を割り込んだ。16日、豪国債利回りの上昇などを背景に序盤は買いが優勢となり0.67前半まで上昇。その後、米株価が下げ幅を拡大する流れから0.66台後半まで反落するも、ミシガン大学1年期待インフレ率が予想通り前月比低下したことが確認されると、米ドル売りが持ち込まれ、引けにかけて豪ドルは買い戻され0.67台前半で越週。

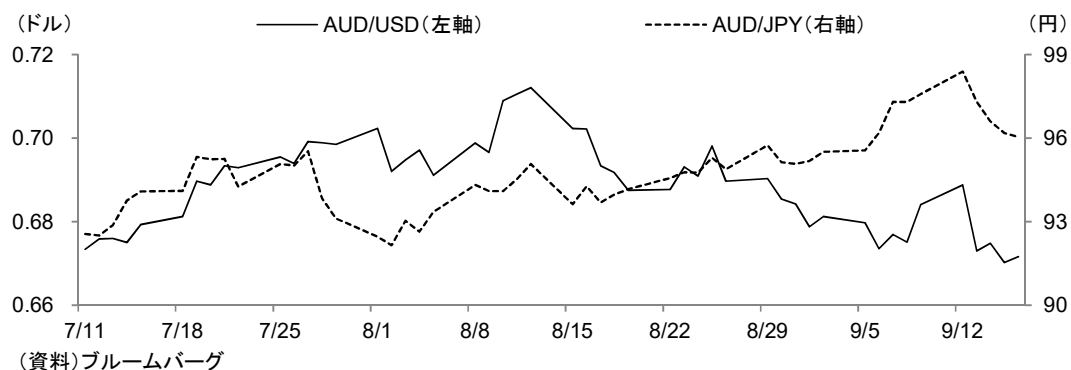
今週の豪ドルはFOMCを受けた反応となろう。先週の米8月CPIが予想外に強かったことで市場が織り込むFF金利のターミナルレートが4%半ば近辺まで上昇し、23年以降の利下げが織り込まれている。今週のFOMCでは75bp利上げがコンセンサスとなっており、一部では1%利上げを予想するエコノミストもいる。一方、ロウRBA総裁が8日に行った講演では、豪州の賃金上昇率圧力が米国ほど強くないことや、利上げの影響が現れるまでに一定の時間がかかることなどを指摘し、今後利上げスピードを減速していく可能性を示唆している。両国の中央銀行が直面するインフレ状況や政策スタンスの違いから、豪ドルには更に下落圧力がかかると見る。ただ、次回FOMCでは一部で1%利上げを織り込む動きもあるため、75bp利上げに留まった場合は、一旦米ドル売りで反応し、豪ドルが上昇する可能性もある。

(3) 先週までの相場の推移

先週(9/12~9/16)の値動き:

(対ドル) 安値 0.6670 高値 0.6915 終値 0.6722

(対円) 安値 95.55 高値 98.60 終値 96.04



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。